

9. 事業化・管理運営案

■新しい拠点施設の管理運営

- ・様々な機能が同居することで、思いがけない新たな交流や活動を生み出す。
- ・それぞれの機能の日常の運営は民間活力を活かして、朝から夜遅くまで利用可能とする。
- ・質の高い空間を整備し、その空間を活かす運営体制を構築することにより、長期間愛着が持たれる施設づくりを目指す。

■導入機能イメージ

- まちなかの居場所スペース（市民のリビング空間）・ミーティング/バックヤード
 - ホール・スタジオ・展示・交流空間
 - 市民活動・地域交流拠点—四日市のまちづくり・催事のプラットフォーム機能
 - 軽飲食できるワークショップスペース（カフェ併設）
 - 屋外・オープンスペース
- ⇒みんなの「サードプレイス」～まちなか交流・情報発信機能～

■運営方法

- ・魅力的な運営体制を目指して、行政だけでなく、市民（個人・団体）、事業者などさまざまな主体が関われる仕組みを構築し、運営を行う必要がある。

■事業化にあたっての課題

- 市内の公共施設の集約、統廃合
- ・公共施設整備は、市内（特に中心市街地）の施設の現状や課題を所管の枠を超えて網羅的に把握し、その中で機能の集約を図るなど効率的・計画的な施設整備を検討する必要がある。

○現状だけでなく10年後、20年後を見据えた施設づくり

- ・健康管理や図書などの文献もICTで当たり前のように使える時代になるなど、現在とは市民生活自体が全く変わる可能性がある。新しい施設づくりを検討する上では、現状だけでなく10年後、20年後の将来を見据えることが必要である。

○キーパーソンの発掘と事業の結びつけ

- ・中心市街地の活性化に資する事業を進めるため、キーパーソンと新たな事業を上手く結び付ける必要がある。既に活動している人、地元出身者で市外で活躍している人など発掘していく必要がある。

○魅力ある施設づくりに向けた事業手法の検討

- ・VFMを優先させれば民間活力を活用する手法はPFI、指定管理制度などの手法がある。その一方で、長年にわたり市民に親しまれ質の高い魅力ある施設を整備するため、デザインのルールを定めた上で設計コンペや事業プロポーザルを行うことも考えられる。

○自立的な事業を支える「まちづくりファンド」

- ・中心市街地における魅力ある施設づくりや空き地・空き店舗活用など自立的な事業を促進するため、まちの長期イメージを作成し、そのイメージにふさわしい事業に対して出資する「まちづくりファンド」の仕組みもある。

■新しい拠点施設の機能と管理運営イメージ

